

令和6年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第三中学校 校長名：飯星 健司

<p>【経営理念】</p> <p>① 生徒一人一人を大切にす</p> <p>② 生徒の良さ、可能性を伸ばす</p> <p>③ 教師の持ち味を生かし、勝負する</p>

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p>【学校運営協議会・会長】 新谷 禎典</p> <p>学校運営協議会（学校評価分）</p> <p>第1回 令和6年 7月12日（金）</p> <p>第2回 令和6年12月13日（金）</p> <p>第3回 令和7年 2月14日（金）</p>

項目	計画・取組			自己評価（令和7年2月1日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度（%）	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	<p>【中期】 生徒の基礎学力の定着と向上を図る</p> <p>【中期】 家庭学習の習慣化と定着を図る</p> <p>【中期】 読書活動とNIE教育を推進し、言語能力向上を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実と確かな学力の育成を図る。 補充的学習（地域未来塾等）の実施。 	<p>【全校共通】市学力調査にて、（小5・中2）の平均正答率が同一学習集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。</p>	75%	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用を意識した授業を教員一人一人が意識したこともあり、「授業が分かりやすいと考えている生徒」が2年生で80%以上、1・3年生で90%以上いる。 市学力調査において、2年生の平均正答率は昨年度（中1）よりも4.7%下がった。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書やICTツールを活用し学習の効率化を図る。また、個別最適な学びの実現のために生徒一人一人に応じた学習課題の提示などすすめ、グループ学習等においても協働的な学びをすすめる。また、地域未来塾や補習等も継続して実施していく。 	<p>生徒へのアンケートで、約9割の生徒が先生方の授業は分かりやすいと回答している。今後も分かりやすい授業に取り組んでほしい。</p>	A
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。 タブレット端末等で学習環境を整える。 	<p>年5回アンケートを取り、学習時間が1時間以上の生徒が90%以上</p>	60%	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を1時間以上行っている生徒は1年45%、2年39%、3年76%と昨年度の調査よりも低下している。また、家庭学習の習慣が身に付いていないと考える保護者が多い。 朝読書の習慣が定着しており、読書について肯定的に捉える生徒も9割以上いる。 社会科や総合的な学習の時間を中心にNIE教育を推進し、新聞づくりや新聞投稿を行った。新聞投稿者は41名と昨年度よりも微減した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「新三中スタンダード」を策定し、授業と家庭学習の一体化を図り、家庭学習を習慣化させる。また、週末課題等においてeライブラリーを活用し、学習ログを双方向で共有することにより生徒一人一人の理解度に応じた指導に生かす。 朝読書、NIE教育をさらに推進していく。 	<p>家庭学習には本人の意思と家の協力が必要である。学習習慣の身に付いていない生徒へのきめ細かな指導を行ってほしい。読書活動やNIE教育など伝統的に取組んでおり、読書活動はスマホから離れて活字読み考える楽しさを生徒が感じる時間としてとても有効だと考える。</p>	B
		<ul style="list-style-type: none"> 朝学活終了後、朝読書を行う。また、図書委員会を中心に、読書啓発を行う。 社会科を中心にNIEを実施する。 	<p>年間読書の冊数を平均3冊以上新聞投稿者が前年度以上</p>						
豊かな心の育成	<p>【中期】 いじめ撲滅への取組</p> <p>【中期】 特別な支援を要する生徒への対応</p> <p>【短期】 あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年3回いじめに関するアンケートやいじめに関する授業の実施 SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。 	<p>生徒、保護者によるアンケートで安心して登校できるが90%以上</p>	99%	A	<ul style="list-style-type: none"> 年3回のいじめのアンケートや担任を中心とする見守り等の取組の効果が出て、生徒・保護者とも安全・安心に学校生活を送ることができると感じている。 SNSを通したいじめなどの問題を、セーフティ教室等の授業で注意・喚起するなど、生徒の「いじめ防止」の意識を高めることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もいじめアンケートを定期的実施する。こまめに二者面談を行うなどして、いじめのサインを見逃さず教員間で情報を共有し組織的に迅速・的確に対応する。 教員の人権意識向上と「いじめの対応」、「体罰防止」の研修会を継続して実施し、教員の意識向上を図る。 	<p>いじめ撲滅に向けて様々な取組に挑戦しているところは、評価できます。現場を発見するための巡回は必須だと思う。発見後の傾聴はもっとも気を付けないといけないから初動だと考える。</p>	A
		<ul style="list-style-type: none"> SC、SSW等と協働し、教育相談を充実させる サポート教室の充実とチャレンジクラスの開室、充実を図り、不登校を減少させる 	<p>教員アンケートや対象の生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上不登校出現率が前年度以下</p>	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> SOSの出し方授業やSCによるストレスマネジメント授業を行うことにより「安心して過ごせる学校」への肯定的な割合が生徒・保護者共に89%であった。 SC、SSW、サポート教室、チャレンジクラス担任を含めた教育相談委員会を週1回実施し、配慮が必要な生徒の情報を共有し、対策を講じている。 自らすすんであいさつをするという生徒の割合が前年度よりも高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> SOSの出し方授業を年3回実施し、必要に応じて二者面談等を実施する。また、家庭・地域と連携し、不登校出現率を減少させる。 今後も教育相談委員会を軸とし、配慮が必要な生徒への手立てを共有化していく。 生徒会や委員会活動を活性化させ、あいさつやマナーについて生徒に考えさせる指導を継続して行う。 	<p>生徒が安心して登校できる学校だと感じている割合が高く評価できる。</p>	A
		<ul style="list-style-type: none"> 市の礼儀読本等を活用し、礼儀やマナーを身に付けさせる。 	<p>学校評価アンケートで肯定的な回答が80%以上</p>						
健全な体の育成	<p>【中期】 基礎体力の向上を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業時における基礎体力づくりやミニオリンピックの実施。 市の駅伝大会等への参加。 	<p>【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2）において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。</p>	137%	A	<ul style="list-style-type: none"> 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において総合評価C以上の生徒の割合が82.7%と同一集団（中1時）と比較しても12.7%増加した。 市の駅伝競走大会に本校より3チーム出場した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も保健体育科の授業における基礎体力づくりやミニオリンピックの取組を継続していく。 今後も市の駅伝競走大会にも積極的に参加していく。 	<p>各種のスポーツを通じて体力の向上を図ってほしい。運動会やミニオリンピック等を行なうとともに、市の駅伝競走大会にも積極的に参加している。</p>	A

【別紙】

	【短期】食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・「弁当の日」や「食育の日」を実施し、食育を推進する。 ・昼の放送による食材等の紹介 	生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上	110%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「弁当の日」で生徒は弁当づくりに積極的になり、食育講演会を実施することで、生徒の食に対する意識と理解が深まった。 ・「食育講演会」で成長期の体づくりをテーマに成長期に必要な食事の知識を身に付けさせることで、生徒の意識が高まった。 ・昼の放送での食材の紹介や、食材の動画等を放送し、給食への関心を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も食育に対する学習も行うことでより一層の理解を深めるようにする。 ・給食の残食減少をテーマにし、生徒会や給食委員会を活性化させる。 	伝統的に「食育の日や弁当の日」が実施されてよく取り組みができています。また、三中の様々な事業で、積極的に地域の方々の参加を促して、地域に開かれた学校に取り組んでいる様子が伺える。	B
まちづくり学習の充実	【中期】全学年でゼロカーボン学習を推進し、環境保全の意識を高め、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年行事でゼロカーボン学習の取組を行う。(1年：川越体験学習、2年：東京体験学習、3年：修学旅行等) ・長期休業日を生かし、全学年でCO2削減の取組を行う。 	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表した。」「学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上	117%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり学習として「ゼロカーボン学習」を行っていることが生徒、保護者、地域に浸透してきた。 ・学年による系統的な指導や教科横断的な指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボン学習を学校だけでなく、地域とも連携しながら推進していく。 ・系統的な指導や教科横断的な指導の工夫について研究・IT委員会を中心にまとめていく。 	ゼロカーボンシティチャレンジ校として、様々な取組を実施しており、環境問題に対する理解が深まっている。	A
	【短期】市内・保護者・地域へ取組を周知する	<ul style="list-style-type: none"> ・学級・学年発表を保護者・地域へ学校・学年だより等で発信し、その取組を周知する。 	保護者、地域アンケートで肯定的な回答が80%以上	106%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Xで学校での活動等を発信した。また、校支援アプリ等で学級だよりや学年だより等を発信できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もホームページやX、校支援アプリ等を活用し学校の情報を発信していく。また、地域との協働活動により学校の取組を周知していく。 	活動内容の配信を工夫したら魅力がもっと出ると考える	B
学校裁量	【短期】小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校区合同研修会を年間2回開催し、2学期に研究授業と協議会を実施。 ・「ふれあいフェスティバル」を実施し、地域と児童・生徒の交流を図る。また、キャリア教育交流、委員会連携の実施。 	教員、生徒アンケートで肯定的な回答が90%以上	60%	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校区合同研修会を実施し、校区の課題について意見交換を行った。また、小中9年間を通しての指導方法等についても協議できた。 ・「ふれあいフェスティバル」を2年ぶりに実施し、地域と児童・生徒の交流が図れた。 ・小中連携について生徒や保護者アンケートでは肯定的な回答が多かったが、教員アンケートでは実施について検討する必要がある意見も多かった。 ・各種検定を第3学年までに4割を超える生徒が取得した。また、各種コンクールについて80%以上の生徒が応募した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も校区での研修会を実施し、小中9年間を見通した指導方法の改善を図っていく。 ・「ふれあいフェスティバル」の実施方法や委員会連携等の在り方については教育的効果も含めて検証し、実施について検討していく。 ・今後も各種検定やコンクールに積極的にチャレンジさせていく。 	三小、雷塚小との連携は、小学生にとっても、中学生にとっても見識が広がる良い取組である。学習が目に見える形で取組が徹底できるとよい。	A
	【中期】基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検定やコンクール等に自主的に取り組み、学習意欲の向上と個性の伸長を図る。 	各種検定資格を生徒の40%以上がもっている。また、各種コンクールに生徒の50%以上が応募した。						

※ 到達度 = 達成値 / 目標値